

令和元年度 学力向上プラン

学校名 中央区立月島第一小学校

学校の教育目標

- ・進んで学び深く考え、行動する子ども
- ・思いやりをもち、助け合う子ども
- ・健康で、ねばり強い子ども

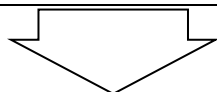
学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・子どもにとって魅力ある授業や達成感・充実感のある授業の実施
- ・指導法の工夫による「学ぶ意欲の高揚」と「学習習慣の確立」
- ・学習規律と基本的生活習慣の定着
- ・互いの違いを認め、尊重し合い、学び合う集団づくりの推進

平成30年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書き取りに課題をもっている児童が多い。 ・長文読解では、文章の記述をもとに筆者の考えや登場人物の心情や様子を読み取ることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書き取り練習が少ないことと、文章を書くときに漢字を使っていない。 ・主述の関係や要点、要旨についての理解が低い。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な四則計算や立式はできているが、計算に不安をもつ児童が桁数の多い数や、小数、分数の計算を行う際に誤答をしている。 ・コンパスや分度器、三角定規の使い方の習熟が不十分で作図ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の習熟が不十分。 ・十進位取り記数法の確実な定着ができていない。 ・コンパスや分度器などを使う機会が授業以外に少ない。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや図などから情報を読み取り、判断する能力が低い。 ・農業、水産業、工業について学んだときは理解できているが習熟が図れていないので時間がたつと忘れてしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取った情報を友達同士で共有や討論をして深める経験が少ない。 ・学んだ知識を活用した学習や実生活に使っていない。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察のポイントの理解が不十分で、課題に合わせて実験・観察方法を考えることが苦手な児童が多い。 ・結果を整理し、論理的にまとめることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項と結びつけて課題を解決する手段を考えることをしていない。 ・まとめは課題に正対したものであることを十分に理解していない。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体力調査の結果から上体起こしとソフトボール投げの記録が全国平均を下回っている学年が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の遊びでの運動経験の差が体力調査の結果の差につながっている。また、個人差が大きい。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	月一スタンダードである学習規律(チャイム着席、学習用具、授業終始のあいさつ、姿勢)を徹底し、全児童が学習の構えを身に付ける。放課後の学習教室(スタディ月一)や夏季休業中に補習教室(サマースクール)を実施し、個別指導を通し、基礎的、基本的な学習内容の定着を図る。
②授業改善	板書計画やノート指導を徹底し、学習活動、形態を工夫し、問題解決的な学習を各単元に必ず行う。
③教員の指導力	統一した指導スタイル(めあて、見通し、自力解決、比較検討、まとめ)で授業を行う。また、教員の指導力向上のための校内研修を年間10回以上行う。
④家庭との連携	「家庭学習の手引き」を配布し、自学、自習の内容を充実させる。宿題の提出率を9割以上にし、家庭学習の習慣を身に付ける。
⑤体力向上	「マイスクールスポーツ」(水泳・縄跳び・持久走)や、ボルダリングに年間を通じて取り組ませる。それらを通じて持久力や巧みな動きを身に付けるとともに体力の向上に努める。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	学校で統一した持ち物の確認を行い、持ち物への記名と、前日に学習道具を自分で準備する習慣づけをして忘れ物をしないように家庭と協力して指導する。
取組Ⅱ	会議のない放課後に補習教室「スタディ月一」の時間を設定する。現在学習している内容の復習や東京ベーシックドリルなどを中心に担任や算数少人数の個別指導や少人数指導を行い基礎・基本の学力の定着を図る。
取組Ⅲ	授業開始と終了が意識できるようにあいさつの指導をする。聞き方名人「あいうえお」、話し方名人「かきくけこ」を各教室に掲示し、意識付けと定着を図る。

②授業改善	
取組Ⅰ	学習指導要領や解説、教科書、指導書、以前の実践を参考に、児童の実態に合った授業プランを構成し、児童が意欲的に取り組める授業にする。
取組Ⅱ	授業後に構成の見直し、児童の授業中の反応、提出物、テスト等の結果分析を行い、児童に「何が身に付いたか」を振り返る。
取組Ⅲ	重点教科である算数科において、児童の関心にあった問題や既習事項の活用が図れる問題の開発、話し合い活動の工夫を行い、年度末には児童が算数を楽しいと感じる割合が8割以上になるようにする。

③教員の指導力

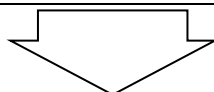
取組Ⅰ	年間指導計画を基に単元を見通した授業計画を立て、毎時間のねらい、中心となる学習活動を明確にし、授業実践をする。
取組Ⅱ	発問の工夫や、ノート指導により児童がめあてをもって学習活動を行い、「わかった」「できた」という満足感や達成感を味わわせる。
取組Ⅲ	ベテラン教諭を講師として授業の指導法や、児童理解の方法の研修を行い、児童が充実感を味わう指導が行えるようにする。

④家庭との連携

取組Ⅰ	手紙や連絡帳を通し、学習状況に関する情報を発信し、学習用具の準備、宿題への取り組み等、児童の学習に臨む姿勢を整える。
取組Ⅱ	「家庭学習の手引き」を配布し、「学年×10分+α」を目安に家庭学習への習慣づけを行う。まずは宿題、さらに自学へと取り組む意欲を育てる。
取組Ⅲ	手紙や保護者会、個人面談などを通して児童の様子や、学校での取り組みを保護者に伝える。また、保護者が教員やスクールカウンセラーなどに相談しやすいようにし、児童を共に育てる環境づくりをする。

⑤体力向上

取組Ⅰ	発達段階にあわせた遊びやゲームを通して、運動に親しみ、体の柔らかさや巧みな動きの向上が図れるようにする。
取組Ⅱ	「マイスクールスポーツ」を通じて動きを持続する能力を高められるようにする。
取組Ⅲ	ボルダリングの課題を登ることを通して体力と思考力を身に付け、自分の限界に挑戦したり、課題を克服したりする楽しさを味わう。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めと終わりの挨拶が定着している。 ・年度初めに全学年の持ち帰りの学習用具と学校保管の学習用具の一覧表を配布し、保護者が6年間の見通しをもてるようにできた。 ・放課後の学習教室(スタディ月一)や夏季休業中に補習教室(サマースクール)の実施により、算数の基本的な知識・理解や漢字テストの得点の向上が見られた。 ・東京ベーシック・ドリルで前学年の既習事項テストを学期に1回行い、回を追うごとに定着率が上がった。 ・聞き方名人「あいうえお」と話し方名人「かきくけこ」を活用して、話を聞く姿勢や話し方について意識をさせていくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時刻に対する意識が低い児童がいるため、授業開始のチャイムが鳴らないときはタイマーを使って授業の開始を知らせたが、着席をスムーズにさせることができず、課題が残った。 ・学習用具を揃えることを、学年だより・学級だより(週予定)で伝えているが、揃わないこともあり、個別に声をかけた後保護者に電話したりする必要がある。家庭との連携が一層必要である。 ・上の学年では、スタディ月一が終わらない課題をするための時間となることもあった。今後は苦手を克服するための時間にしていき、自分のために学習するといった前向きな気持ちになるよう声を掛けていく。
②授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合った授業プランの構成、テストなどの結果分析を通して、子供達は意欲をもって授業に取り組んでいる。 ・導入の工夫や、具体物を使っての説明を多く取り入れたり、既習事項の整理を全体ですしてから課題に取り組ませたりして、児童が課題の解決に取り組みやすくなった。 ・個人学習、ペア学習、グループ学習、学級全体などの様々な学習形態や、ホワイトボードを取り入れた学習を取り入れ、自分と友達の考えと比べ、思考を深める学び合いができるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に児童に行ったアンケートでは「算数の授業がとても楽しい・楽しい」と答えた児童は約7割であった。児童の実態の分析を行い、8割を目指していく。 ・ICT機器を活用した授業を取り入れ、もっと児童の理解につながるようになっていく。 ・友達の見解や考えを聞いたあとに、決まりきった言葉しか言えない児童が多く、語彙力が少ない。話を広げたり深めたりできるように言葉集め等を行い使える言葉を増やしていく。 ・児童の苦手項目にさらに早く気付けるように、テスト結果の分析を行う。それに基づき、スタディ月一を行ったり、学習指導補助員と連携を深め、個別対応を行ったりする必要がある。

<p>③教員の指導力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都や区等の研修に参加することで、児童理解や、授業法を学び、指導力や専門性の向上につなげた。 ・校内の若手研修会において、経験のある教員が講師を務め、若手に指導技術の向上を図った。経験ある教員も自身の指導を見直す事ができた。 ・授業を行う前に、授業計画を立てて、毎時のねらい、中心となる学習活動が児童に明確になるような授業を実践した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート指導の統一が不十分な部分がある。学年の成長段階に合わせたノートの取り方を学校全体で考えていく必要がある。 ・子供の言葉からまとめを引き出すことを意識していく。
<p>④家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・週予定の発行や、日々の予定を連絡帳で細かく伝える機会を設け、学校生活の様子や学習用具の準備のことなどについて伝え、児童を共に育てるという姿勢での環境、雰囲気づくりができた。 ・児童の様子の細かなことも連絡帳や電話、面談で保護者に伝え、児童の様子を共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち物や宿題、家庭学習の徹底ができていない家庭と学校との相互理解をどのように進めていくかを考える必要がある。 ・保護者同士のつながりを深めるためにも、保護者会のもち方や学校からの情報発信の仕方を工夫していく。
<p>⑤体力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間、放課後など児童同士で誘い合い、外遊びをしている。 ・児童個人や、学級として数値目標を設定し、その達成に向けてマイスクールスポーツに取り組んだ。 ・ボルダリングを通して、児童が互いに応援し合ったり、声掛けをしたりしながらスポーツを楽しむ雰囲気ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びが嫌いな児童に対して、少しずつでも、外遊びが楽しめるような手段を講じる必要がある。 ・ボルダリングの時間をさらに確保し、安全に気を付け、活用できるようにする。 ・運動の苦手な児童にスモールステップで「できる」という自信と次への意識付けが必要である。